

経営概要

A氏 親子

- ◆所在地
貝塚市
- ◆経営規模
施設野菜 30a、水稻 40a
- ◆従業員数
3名（父、母、子）
- ◆事業内容
主に水なす、しゅんぎくのJA出荷



栽培している水なす

1 現状と相談までの経緯

家族経営で主に水なすときくなの栽培をしており、5年後に父から子に経営継承を予定しているものの、具体的なスケジュールは未定で何から取りかかればよいかわからない状況であった。

こうした中、日常的に付き合いのある普及指導員から大阪府農業経営・就農支援センターを紹介された。

2 相談内容

継承に向けたスケジュールが決まっておらず、親から子に引き継がなくてはいけない内容（栽培技術、取引先など）を共有する必要があった。

5年後の経営継承に向けて、現状の経営診断の実施と円滑な経営継承に向けた取組を行いたい。

3 支援内容

■ 支援チームによる支援計画の策定

経営継承に向け、経営診断の実施、継承項目の整理、スケジュールの作成などの専門家の支援が必要であることから、専門家による経営分析を踏まえ経営戦略会議において経営継承に向けた支援チームを編成し、支援計画等を策定した。

支援チーム構成員：

税理士、普及指導員、JA中央会

■ 専門家派遣を通じた助言の実施

支援計画に基づき、普及指導員が中心になり、専門家と調整を実施。相談者の円滑な経営継承を図るため、税理士の専門家派遣を通じて、経営継承に向けた支援を実施した。

・経営分析・継承項目整理の助言（税理士）

現状の経営分析や継承の内容を大きく「ヒト・モノ・カネ」に分けて継承すべき項目を確認し、継承スケジュール作成の助言を行った。

・営農技術等に関する助言（普及指導員）

栽培管理に関する継承項目の整理や、複数回の専門家派遣の間に継承に関する農業者の意向を確認するなど、継承スケジュールの作成に向けて支援を行った。

■ 支援を受けて・・・

5年後の経営継承に向けたスケジュールを作成。年間の栽培計画作成など単年で継承が難しい項目については、1年目は親の栽培計画の立て方を確認し、次年度に子が計画を立ててみるなど複数年にわたって徐々に継承できるように整理した。

■ 今後の経営展開

来年度以降は、スケジュールの遂行状況とより具体的な継承事項について確認を行う。

【スケジュール】	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
父	○歳	○歳	○歳	○歳	○歳
子	○歳	○歳	○歳	○歳	○歳
イベント					
【アクションプラン】	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
ヒト					
モノ					
カネ					
農機・オート					
・農具技術					
・知識ノウハウ					
・法人格準備					
・関係構築					
その他					
・失敗談					
・工夫の蓄積					
※は沿革表での歴史					

作成した継承スケジュール

喜びの声

事業継承について必要性は感じながらも、どう進めたらいいのかわがらんでいました。

日ごろから付き合いのある普及指導員から農業経営・就農支援センターを紹介してもらい、センターの相談員や専門家のおかげで、スムーズな事業継承にむけての道筋ができたと感じています。

専属スタッフ所感

これまで漠然としていた事業承継のイメージが、承継すべき事象を専門家とともに一つ一つ考えていくことにより具体的になり、承継のスケジュールを作成することができました。これからは、このスケジュールをもとに親子で話し合いながら一步一步着実に進めていきましょう。